


2022年 新春の挨拶



新年あけましておめでとうございます。

新しい年を迎えるにあたり、町民の皆様にご挨拶申し上げます。

昨年、私が8月に町長に就任してから、私の掲げた「4つのファースト」の実践に向けて、またアフターコロナを見据えた新型コロナウイルス感染症対策も併せて、具体的な施策に取り組み始めております。

新型コロナウイルス感染症対策においては、町民の皆様のご協力のおかげで9割の町民がワクチン接種を完了することができましたことに、感謝申し上げます。感染拡大は予断を許さない状況が続きますが、感染症対策を始め、支援金施策など町民の皆様のご生活を守るため、これからも全力で取り組む次第です。

国内では、東京オリンピック・パラリンピックが開催され、当別高校出身の山本優選手がソフトボール競技で大活躍し、金メダルを獲得されたのは記憶に新しいと思います。オリンピック・パラリンピック大会でもそうでしたが、感染症対策を講じながら、オンラインによるイベント開催が当たり前な世の中になりつつあります。当別町でも150周年記念式典は中止となりましたが、オンラインの代替イベントを実施するなど、デジタル技術を活用した時代の一端を垣間見ることができました。

施策においては、全国からの「ふるさと納税寄付金」の後押しを受け、義務教育学校「とうべつ学園」やJR学園都市線「ロイズタウン駅」の着工、子育て世帯向け公共賃貸住宅「COCOTTO」の入居開始など、長年の課題であった人口減少対策にハード面よりアプローチを進めております。また、町有の住宅地「ゆとりっち稲穂」の完売や「スウェーデンガーデン」の販売開始など、新築住宅の建設件数が増加しており、人口減少に歯止めがかかる兆しも見え始めています。こういった流れをさらに加速させるべく、昨年12月の町議会定例会で「定住促進条例」と「医療機関誘致条例」を承認いただき、ソフト面でも人口減少対策に取り組む体制を整えたところです。

さて、2022年の干支は壬寅（みずのえとら）、「陽気を孕み、春の胎動を助く」、「厳しい冬を超え、春に芽吹き、華々しく成長する」と言われています。まさに2022年の当別町は、「ロイズタウン駅」の開業、「とうべつ学園」の開校などが予定されており、町が華々しく成長する一年になることは間違いありません。この時流に乗り、私が掲げた「4つのファースト」による人口減少対策に果敢に挑戦し、町の発展に尽力してまいりたいと考えています。

皆様にとりまして、新たな希望に満ちた年になりますよう、心からお祈り申し上げて、年頭のご挨拶とさせていただきます。

当別町長 後藤 正洋